

# 令和2年度学校関係者評価委員会及び教育課程編成委員会報告書

学校法人常松学園札幌工科専門学校

学校関係者評価委員会

教育課程編成委員会

## 議題

令和2年度の実施状況報告と令和3年度の方針

1. 開催日時 令和3年5月29日(土)

2. 場 所 札幌工科専門学校 第2校舎 会議室

3. 学校関係者評価委員

常松 哲	理事長
伊藤 幸一	理事
前田 寛之	一般社団法人北海道環境保全技術協会 顧問(業界関係者)
奥内 尚史	一般社団法人札幌造園協会 理事長(業界関係者)
下原 英一	(株)イーエス総合研究所 常務執行役員業務企画部長(企業等委員)
嘉屋 幸浩	(株)園建 代表取締役(企業等委員)
古城 学	常松学園札幌工科専門学校同窓会長
松本 勲	モエレ町内会員
三上 敬司	校長
阿部 峰雄	環境土木工学科長
岩瀬 聡	造園緑地科長
大坂 道明	環境土木・造園施工管理科長

4. 教育課程編成委員

常松 哲	理事長
伊藤 幸一	理事
前田 寛之	一般社団法人北海道環境保全技術協会 顧問(業界関係者)
奥内 尚史	一般社団法人札幌造園協会 理事長(業界関係者)
嘉屋 幸浩	(株)園建 代表取締役(企業等委員)
伊藤 朋喜	(株)イーエス総合研究所 常務執行役員事業本部副本部長 第二事業部長(企業等委員)
三上 敬司	校長
阿部 峰雄	環境土木工学科長
岩瀬 聡	造園緑地科長
大坂 道明	環境土木・造園施工管理科長

5. 資 料

令和2年度 学校の取り組み状況・教育課程編成に関する報告

# 令和2年度 学校の取り組み状況・教育課程編成に関する報告

## I 教育理念・目標

### <令和2年度前期の報告>

#### ・教育理念・目標の徹底

- ① 教職員が自立心と社会と調和する教育理念を共有するために、教育計画の作成、実施、結果が出た時や問題があった時など、会議のみならず普段から話ができる関係づくりを教職員の目標とする。

学生指導でトラブルが発生した時に協働体制が不十分な場面があった。継続的に教育理念・目標を確認する機会をつくり、教職員全体として取り組むことへの共通理解を図り続ける必要がある。

#### ・教育体制とカリキュラム

カリキュラム変更に伴い個別指導を行う時間が設けられ、わかるまでの教育の実践がより行える状況になったが、教員によって活動状況に違いがある。

学科間の共通合同科目の設置により教員配置の標準をこころみだが、教科担当数の差は依然として残りまだ協働体制の確立には至っていない。教科担当の標準化をさらに進める必要がある。

コロナ禍によるオンライン授業でも教室を分けることにより過密になることを防ぐことができた。平常カリキュラムにおいても、一部合同授業で33人となっており以前のような大きい人数での合同授業は避けられている。年度により学科ごとの学生数の違いがあるが、今年は機材利用、授業編成の工夫、教員の負担により少人数制で教育を行える状況になっている。

### 委員の意見

・令和元年度札幌工科専門学校自己評価結果 X教育活動全体及び学生の実態について、昨年度と比較して良かった点・悪かった点の冒頭において、「合同授業が多く、大人数による弊害？欠席・居眠り・私語が増加しているのではないか。」と記されている。このことを踏まえ、学生や保護者からクレームを付けられる前に、本校の教育理念におけるキーワードの一つである少人数制を直ちにホームページや印刷物から削除するか表現を変更するとともに教育理念・目標を早急に見直すべきである。(前田)

・皆木先生担当教科を紀本先生と藤永先生で引き継ぐ方向で検討していただきたい。紀本先生に関しては、イーエス総研業務のウェイトが多くなる。藤永先生に関しては、お客様より学校中心で良いとの意見である。(下原)

・教育理念・目標が、学校、学生、保護者と共有されていないとの課題があるが、今回示されている方針を確実に実施し、社会全体への理解されるように活動していただくことが必要と思います。(伊藤朋)

### <令和2年度の報告>

#### 【評価】

少子化の中、土木・造園緑地・林業・測量技術者育成の強い養成に應えるため、

(教育理念)

「少人数制による親切・丁寧な分かり易い・分かるまでの教育」

(教育目標)

○基礎学力の向上

○基礎的な専門知識と技術の習得

○素直な心と良き社会人になるためのマナーの涵養

は、学生・学校の実態に則し、社会経済のニーズを踏まえたものと言える。

昨年度、1.コース制 2.個別指導時間の確保 3.カリキュラム変更 4.コロナ禍対策 5.造園緑地科の AO 入試を教育理念・目標に基づき導入した。本校の教育理念・目標は学生・学校の実態に即し、本校の目指す目標として適切であると考えている。また、造園緑地科で常勤教員 1 名が退職し、新規採用はないが、教育理念・目標の共有化で学科を超えた現教職員の協力を進め、教育体制の確保をしている。

#### 【新年度方針】

新年度では教育理念及び目標に基づき教職員間の協力体制をさらに発展させ、技術力と社会性の向上を図り社会に貢献できる人財の育成を行う。コロナ禍においても質を維持し安定した授業の展開をするとともに、学生の募集を組織的におこない経営安定化を図る。

教育理念・目標はすべての基礎になるので、年度当初には教職員全員の共通理解の徹底を図り、学校運営・教育活動の礎とする。

学校名・学科統合は今後の課題である。

#### 委員の意見

・保護者に教育目標等をどのように伝えていきますか。当校ばかりでは無く他校においても、学生と親の理解が乖離している傾向と言われていますがこれが授業態度にも現れているのでは（授業開始と同時に机に伏せて寝ている）（下原）

・造園緑地科の教員が退職され新規採用に至っていないとのことですが、専門性の高い学科のため、早急に補充して、教育目標に影響しないように対処すべきだと思います。（伊藤朋）

## II 学校運営

＜令和2年度前期の報告＞（Ⅶ 学生受け入れ募集状況を参照。）

造園緑地科では AO 入試の導入など入試改革とカリキュラム変更また、広報及び学生募集活動を行った結果、入学希望者が 10 月現在 7 名と上昇している。しかし、定員を満たすまでには増えていない。

現在、企業委託制度を利用して本校の土木・測量学科に社員を入学させている企業は、建設及び測量設計会社をあわせ過去 5 年で延べ 125 社に上る。また、北海道測量設計業協会も入学奨励金制度を設けている。造園業界では㈱コクサクが企業委託制度を利用し、1 年制施工管理科造園コースへ 4 名の学生を入学させている。2 年課程が安定的運営されることが学校全体として安定につながる。

今後、安定的に入学生を確保していくために業界や企業と連携していくことが不可欠になると考えられることから、造園緑地科においても個別の企業に加え（一社）北海道造園緑化建設業協会などの関連団体と連携し学生募集を行いたい。加えて、高校においても造園緑地科に関連する教育を行っている学校を主として指定校推薦制度を設け、高校入学時から進路指導などで連携し、造園業界を希望する人材を確保したい。業界が求める技術や資格と入学生が求める内容、さらに経済支援度などから入学希望者の動向を把握し、学科の在り方を判断したい。

#### 委員の意見

・「教員によって活動状況に違いが有る」、「教科担当数の差が依然として残りまだ協働体制の確立に至っていない」については、教員間の意思疎通・指導體制の不備もあるのでしょうか。（下原）

・全員参加に理解を示さない職員が存在するとしたらそれが問題です。（松本）

・校名の札幌工科大学の工科は漠然としていて本校の実態を正確に表していない。分かりやすく、分かるまでの教育を目指すのであれば、まず校名を例えば札幌造園土木専門学校（Sapporo College of Landscaping and Civil Engineering）と変更する。この校名ならばどんな専門学校なのかを高校生でも理解できる。将来、造園緑地科と環境土木工学科を統合し、造園土木工学科とする。（前田）

・前期の報告で、教科担当の標準化が問題となっていますが、すぐに改善することは難しいと思いますが、今後も継

続いて改善を図って成果を上げていただきたい。(伊藤朋)

<令和2年度の報告>

	応募総数	①合格						②不合格	③受験辞退・欠席	④合格辞退	⑤入学者
		一般	学校推薦	社会人	企業委託	AO	長期高度				
土木	23	14		7			21	1	1		21
造園	18	1	1	1		13	2	18		1	17
測量	16				15		15	1			15
施工	21	1		2	17		20	1			20
合計	78	16	1	10	32	13	2	74	3	1	73

【評価】

環境土木工学科では大学中退者4名を含む21名(定員25名)、造園緑地科では定員15名のところ社会人6名、大学進学からの進路変更5名、高校生6名の計17名、測量情報科は15名全員が企業委託生(定員15名)、土木施工管理科は18名が企業委託または企業の子弟、1名が高校生、1名が大学4年生とのダブルスクール(定員15名)で入学することとなった。入学生は全部で73名となり、過去最高となった。教育理念・目標の徹底により高い公務員試験合格率・資格取得率、100%就職率、卒業生の活躍による企業・業界からの厚い信頼の上に、入試改革、①修学支援新制度②専門実践教育訓練給付金③長期高度人材育成コースなど国の給付金制度、企業委託制度の導入、さらに、コロナ禍により少人数で対面授業を行っている本校へ進路変更が入学者増加につながったと考えられる。

【新年度方針】

学校運営の安定には連続で定員を確保することが必要となる。環境土木工学科では公務員養成に重点を置き、北海道開発局と連携し学生募集を行う。造園緑地科では、従来のAO入試に加え1.指定校推薦制度、2.(一社)北海道造園緑地建設業協会と連携した企業奨学金制度を増設し学生募集活動を行う予定である。また、スタディサプリ等のデータを利用してダイレクトメールの送付や在籍高校訪問などより細やかに募集を行い、引き続き入学希望者を確保し経営の安定化を図りたいと考えている。

教職員1名が退職したことにより、教科担当者が補充はせず学科に関わらずすべての教員及び講師の協力を得てカリキュラムを回していく状況である。教職員が一人も欠けることができない状態が続くため、教職員の健康管理に配慮が求められる。また、学生含めて学校内でコロナ陽性者を出さないよう昨年度にまして対策を徹底する必要がある。

## 委員の意見

- ・近年、測量科に測量・設計会社以外にゼネコンからの企業委託生が増えている状況が見受けられますが現場での測量は管理監督立場での基本、建設現場にて急速に進んでいる i-Construction の影響ですか、現場等での測量に関しての新システム・機器は益々進化していますがそれを使いこなす改良するには測量学の基本は絶対条件と考えます。測量・コンサルタント業界でも近い将来測量士の資格を持って実務出来る技術者が減少する事が危惧されています、これは、ゼネコン及び下請け会社にも現れてきている中、当校への期待が益々増加傾向中、学生の受け入れ体制をお願いしたい。自己評価集計表で「発議から審議、決定に他人任せや優柔不断さを感じる」が気になります。(下原)
- ・入学生が過去最高となっていますが、教員不足を解消しなければ継続も困難となります。道内唯一の建設系専門学校として、北海道開発局、北海道との連携を積極的に強化して継続的な学生の確保に努める必要があると思います。自己評価集計シートの②協働体制で、弊害が生じているとの記載がありますので、気に掛かります。(伊藤朋)
- ・学校運営の新年度方針では、教職員の不足とコロナリスクについて触れていますが、教職員不足は、過年度の評価委員会でも話題となったと記憶しています。コロナリスクは、今年度限りとしても、教職員不足は、改善に至らなくとも、” どう進めるか” 等の方針と令和3年度の行動を示せないかを考えるべきでは？マンパワーは、一長一短で解決できないでしょうが、このリスクが引いては、教育理念・目標や学修成果に波及しないかを危惧しています。(古城)
- ・学校周辺の環境整備について 学校周辺の環境整備は学校の質的な評価を上げるために必要と思います。実習場や校舎の周辺など学校の管理地と認識される場所の整理整頓はもちろん、見た目でも手入れされていることをアピールすべきではないでしょうか。少なくとも周辺に不快感を与えることのない環境でなければなりません。(松本)

## Ⅲ 教育活動

<令和2年度前期の報告>

### 1 新型コロナウイルス関連

学内に「新型コロナウイルスの対応マニュアル」を制定し、感染予防対策を実施しながら授業を行っている。

#### 1) 授業について

- ・北海道からの要請に答え4月15日(水)～5月6日(水)まで臨時休校した。
- ・前期時間割を座学系と実習系に分けて再編成し、5月7日(木)からZoomを使った遠隔授業にて座学系を実施した。
- ・6月8日(月)から全ての学科で対面授業を再開した。
- ・40名を超える合同授業では、教室を2つに分け、片方の教室へZoomでライブ配信することで密集を避けた。9月7日(月)の後期授業からは、時間割を再編成し、担当教員がそれぞれの教室で通常授業を行っている。担当教員の負担は増加したが、配信による授業の不公平感は解消した。

#### 2) 行事について

- ・入学式(4月)・・・中止し、学生のみ入学ガイダンスとした。
- ・健康診断(4月)・・・延期し6月下旬に実施した。
- ・体育大会(6月)・・・中止した。
- ・救命講習(9月)・・・10教室に分散し実施した。
- ・全校現場見学会(9月)・・・学科ごとに訪問先を分散し実施した。
- ・学園祭(10月)・・・中止した。

- ・予餞会（1月）… 今後検討する。
- ・卒業式（3月）… 広い会場で実施予定。

### 3) 健康管理について

- ・学生の登校時に玄関前で①マスク着用の確認②自宅での検温結果や体調の聞き取り③非接触型体温計による検温④手指の消毒を実施している。

#### 委員の意見

- ・業界、企業、協会等と連携し学生募集について、具体的計画を立てて、主に動く人、スケジュール等を明確にしないと理想論で終わるのでは。（下原）
- ・社会（企業）が求めているニーズを的確につかまえて多くの技術者を育成すべきです。本校は北海道でこれができる場所であると思っております。（松本）
- ・複数の女性の意見を聞くため、株式会社イーエス総合研究所以外の女性技術者・科学者に両委員会の企業等委員をお願いする。（前田）
- ・高校入学時から進路指導や業界との連携による学生の確保は有効と思います。今まで通りではなくあらゆる手段を使って、魅力を伝えることも必要と思います。（伊藤朋）

#### <令和2年度の報告>

##### 【評価】

コロナにより授業停止があったが zoom による遠隔授業の導入により、コロナの影響を最小限にし、陽性者を出さずに授業を終えることができた。しかし、シラバス通りにできない教科や習熟度に差が出たなど問題点があった。また、クラスを分けて、2回授業を行うなど通常ではない手間が生じたほか、体育大会や学園祭など社会性を高める活動が出来なかった。

人材育成目標に向けた授業を行える教員の確保は行われていない。特に将来の教育を担う測量専任教員の確保が出来ていない。

##### 【新年度方針】

文科省は一部をオンライン授業とすることを認めているので、今後、オンライン授業の研究をおこない、効果的な授業展開の準備をする。コロナ対策を徹底し、通常授業を継続できるように対策を徹底し、体育大会など教養体育の実施を最大限考慮する。

入試改革、様々な給付制度の活用また企業奨学金など業界との連携など様々な形で学生募集を行い、入学定員の確保を行い経営の安定的化を図りつつ、本校卒業生なども含めて若手教員の確保を進める。

#### 委員の意見

・コロナ禍の中で、各先生方のご苦労されている事は判りました。コロナ禍での学生指導、特にオンライン授業等校外での生活に関しても先生方の指導力で学生の気持ちの支えになっていただきたい。自己評価集計表で「継承という意味では適合しているが、方向性としては疑問」の理解できませんでした。（下原）

・クラス分けによる授業回数が増えるのであれば、オンラインのズームだけでなく、オンラインビデオによる授業等で効率化を図ることもできるのではないかと。（伊藤朋）

#### IV 学修成果

<令和2年度前期の報告>

##### 1 退学及び休学者（令和2年11月18日現在）

[退学]

- ・環境土木工学科1年 1名（学業不振）

[休学]

- ・環境土木工学科2年 1名（学業不振）
- ・環境土木・造園施工管理科 環境土木コース 1名（病気）

##### 2 資格取得及び就職状況

[資格]

- ・測量士補 5月→11月に延期 1名受験予定
- ・技術士補（森林部門） 3名受験
- ・2級造園技能士 中止
- ・2級園芸装飾技能士 中止
- ・3級造園技能士 7月→12月に延期 4名受験予定
- ・3級園芸装飾技能士 中止
- ・2級土木施工管理技士（学科） 後期 42名受験
- ・2級造園施工管理技士（学科） 後期 8名受験予定
- ・2級管工事施工管理技士（学科） 後期 3名受験予定
- ・2級ピオトープ施工管理士 1名受験

[就職]

- ・北海道職員（総合土木A） 最終合格 1名
- ・ // （農業土木A） 最終合格 1名
- ・陸上自衛隊（曹候補生） 最終合格 1名
- ・国家公務員（一般・高卒）技術北海道 最終合格 5名
- ・ // 林 業 最終合格 1名
- ・北海道職員（総合土木B） 最終合格 5名
- ・ // （林業） 最終合格 3名
- ・札幌市（短大の部） 土木 最終合格 1名
- ・根室市 土木 最終合格 1名
- ・根室管内職員 土木 最終合格 1名
- ・民間企業 5名内定

##### 公務員の割合

学科\卒業年度	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
環境土木工学科	6/12名 50%	16/27名 59.3%	9/19名 47.4%	5/20名 25%	17/22名 77.3%	9/18名 50%	-/14名 %
造園緑地科	0/6名 0%	3/8名 37.5%	7/10名 70%	3/6名 50%	5/6名 83.3%	3/4名 75%	-/2名 %
測量情報科	0/15名 0%	0/8名 0%	0/19名 0%	0/11名 0%	0/13名 0%	0/15名 0%	—
環境土木・造園 施工管理科	0/11名 0%	0/19名 0%	1/15名 6.7%	0/18名 0%	0/17名 0%	0/29名 0%	—

※1年次修了生は当初の卒業年度の人数を含む

公務員合格者ほぼ全員が2年課程の環境土木工学科、造園緑地科の学生であった。また、環境土木工学科の学生が国家公務員農業土木職で受験し林野庁での採用になったほか、造園緑地科の学生が土木職で受験し国土交通省地方整備局や福島県の採用になっている。また、両学科の学生が土木と造園施工管理技術検定試験の両方を受験し合格している。教員と教科目さらに学生指導など今まで以上に連携を取っていくことで、2年課程として安定的な成果を上げていくことが可能である。

##### 委員の意見

・本校入学時点で公務員技術職になれるチャンスを具体的に説明する機会として、従来実施している官公庁オリエンテーションで若手含め札幌工科専門学校卒生で現行行政管理職の立場の卒業生も出向いていただく方向で如何でしょ

うか（公務員希望学生に対して自身の将来像可能性も描ける）。（下原）  
・公務員希望が大多数ではないかと思っていましたが、そうでもないことが分かりました。50%の合格率ですのでかなり希望する学生にとってはアピールになると思います。（松本）  
・資格取得と就職状況は素晴らしいので、各種イベントに参加しPRする。（前田）  
・コロナ禍でも多くの生徒が、資格・就職の成果を上げていることは素晴らしいと思います。（伊藤朋）

## <令和2年度の報告>

### 【評価】

#### 1 退学及び休学者（令和3年3月31日現在）

##### [退学]

- ・環境土木工学科1年 2名（学業不振・進路変更）
- ・環境土木・造園施工管理科 環境土木コース 2名（進路変更・病気）

##### [休学]

- ・環境土木工学科2年 1名（学業不振）→復学予定

#### 2 資格取得及び就職状況

##### [資格]

- ・測量士補 1名合格
- ・技術士補（森林部門） 1 / 3名合格（33%）
- ・2級造園技能士 中止
- ・2級園芸装飾技能士 中止
- ・3級造園技能士 4 / 4名合格（100%）
- ・3級園芸装飾技能士 中止
- ・2級土木施工管理技士（学科） 後期 42 / 42名合格（100%）
- ・2級造園施工管理技士（学科） 後期 8 / 8名合格（100%）
- ・2級管工事施工管理技士（学科） 後期 0 / 3名合格（0%）
- ・2級ビオトープ施工管理士 0 / 1名合格（0%）

##### [就職] 卒業学年の全員が就職決定（100%）

- ・北海道職員（総合土木A） 最終合格 1名
- ・ "（農業土木A） 最終合格 1名
- ・陸上自衛隊（曹候補生） 最終合格 1名
- ・国家公務員（一般・高卒）技術北海道 最終合格 5名
- ・ " 林業 最終合格 1名
- ・北海道職員（総合土木B） 最終合格 5名
- ・ "（林業） 最終合格 3名
- ・札幌市（短大の部） 土木 最終合格 1名
- ・根室市 土木 最終合格 1名
- ・根室管内職員 土木 最終合格 1名
- ・民間企業 6名内定



## 公務員の割合

学科\卒業年度	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
環境土木工学 科	6/12名 50%	16/27名 59.3%	9/19名 47.4%	5/20名 25%	17/22名 77.3%	9/18名 50%	-/14名 %
造園緑地科	0/6名 0%	3/8名 37.5%	7/10名 70%	3/6名 50%	5/6名 83.3%	3/4名 75%	-/2名 %
測量情報科	0/15名 0%	0/8名 0%	0/19名 0%	0/11名 0%	0/13名 0%	0/15名 0%	—
環境土木・造園 施工管理科	0/11名 0%	0/19名 0%	1/15名 6.7%	0/18名 0%	0/17名 0%	0/29名 0%	—

### 【新年度方針】

就職率 100%

(公務員合格者・民間企業希望者)

国家試験合格 100%

退学者 0 を目標に、技術力の上に社会性を身に着けた人材を育成する。

## 委員の意見

・2 級土木、造園管理技士の合格率 100%は、素晴らしいと思います。先生方の指導の結果であり、今後も継続されること望みます。(伊藤朋)

## V 学生支援

<令和2年度前期の報告>

### 1 国の修学支援新制度

2020 年 4 月より国の修学支援新制度（給付型奨学金＋学費減免）が開始され、2 年生のうち 3 名が利用している。

### 2 新型コロナウイルス関連の経済的支援

日本学生支援機構の「給付型奨学金（家計急変）」、文科省の「学生支援緊急給付金」など、コロナの影響で経済的に困難になった家庭への支援について情報提供しているが、現在のところ希望者は出ていない。

## 委員の意見

・現在ボランティア活動はどのような事をしているのか。札幌工科専門学校は地域の理解もあり学園祭等で地域活動を行っているが、学校近くでの冬季間の一人暮らし高齢者宅の除雪ボランティアなどは過度ですか（人に感謝されるボランティア活動体験も教育）。(下原)

・情報をわかりやすく発信しているのだと思います。本学生は家庭的に恵まれているのだと思いました。(松本)

・マナー指導では、誰にでもできるボランティア活動としてモエレ団地の歩道や車道のごみ拾いや除草を年に数回、できれば毎月行う。また、モエレ町内会の意見を聞き、歩道や後期高齢者宅の除雪ボランティアにも挑戦し、地域住民に喜んでいただく。なお、本校に対するモエレ町内会の要望などを聞くため、株式会社イーエス総合研究所社員やその家族ではなく、例えば町内会長に両委員会の委員をお願いする。(前田)

## ＜令和2年度の報告＞

### 【評価】

令和2年度「国の修学支援新制度」利用者・・・3名

国の修学支援新制度の活用のほか、授業料の振込期限への配慮など様々な経済的支援により、学経済的理由による退学者を出すことはなかった。

学習生活に影響を及ぼす生活態度不良者などに対し、担任のみではなく生活指導責任者や学科長、校長を含めて対応にあたる必要があった。また、ステイホームより課外活動を自粛させた。

### 【新年度方針】

国の修学支援や給付制度をはじめ、企業奨学金や本校独自の奨学生制度などさらに支援を充実させる。

ボランティア活動を改めて計画はしていないが、実習で使用させていただく場所と学校周辺の清掃や除雪活動は継続的に行う。また、地域と接する個所には積極的に花による緑化を行い、明るくきれいな環境づくりを行う。教職員学生を含め地域の方への挨拶を励行し、引き続き地域に見える学校を目指す。学生指導に当たっては生活指導部により組織的指導体制により、対応する。

## 委員の意見

・卒業生の転職・退職は、採用したどんな組織でも大きな課題です。就職して2～3年目が多く、周りに相談する人がいない、話せない、仕事に自身が持てない等が上げられます。この時期に卒業生に対するアフターと少しの解消方法として、イーエス総合研究所顧問（学校で授業持っている顧問）の訪問声掛けも方法（営業等の次いでに）かと思いますが、同窓会名簿等の整備が必要。（下原）

## VI 教育環境

### ＜令和2年度前期の報告＞

コロナ禍で4月からの授業変更、Zoomによる遠隔授業と教室隔離による同時授業を行い、前期授業は多くの教職員の協力のもとカリキュラムを遂行することができた。後期は平常授業を行っているが担当教科の集中などがあり、教科数の標準化などのさらなる対策が必要な状況である。

防災グッズは、寝袋・災害用毛布・非常食・水・アルミマット・簡易トイレ・保温遮熱シート・LED 懐中電灯・防刃軍手・発電機を購入した。

### 委員の意見

- ・最も気をつけなければならないのがクラスターであると思います。授業ができなくなります。（松本）
- ・「後期は平常授業を行っているが、担当教科の集中などがあり、教科数の標準化などのさらなる対策が必要な状況である。」とのことだが、非常勤教員を減らし、専任教員を増やして抜本的な処置をとるべきである。（前田）
- ・今後は、デジタル化が急速に進化することが考えられるため、教科書等のデジタル化等への対応した設備も将来的に必要なと思います。（伊藤朋）

## ＜令和2年度の報告＞

### 【評価】

コロナ対策として、Zoomの導入活用、教室の分散、加湿器及び教室の換気窓の設置、館内消毒、清掃により、幸いにも陽性者を出すことなく教育活動を継続することができた。

【新年度方針】

コロナ対策として従来の対策上さらに、教室配置により分散授業の徹底をおこなう。また、体温検知システムを導入し、入館時に確実な体調管理を行う。

学校備品として、測量機器として、電子平板 3 台、3DCAD ソフト 1 台、造園 3DCAD ソフト 1 台、ハウス灌水システムを導入予定。

委員の意見

・自己評価集計表に「非常勤への質問事項でない」出てきますが、常勤教員と非常勤教員の区別はあると思いますが特にイーエス総合研究所顧問の先生方から聞かれる意見として、学校行事・授業等の共有すべき情報伝達の不備が上げられますので個々の顧問の意見も聞きながら共通の目的・目標に向けたらと考えます。(下原)

・蔵書に最新書籍が少ないとの意見があるので、図書の補充も考慮してもよいと思います。(伊藤朋)

Ⅶ 学生の受け入れ募集

<令和2年度前期の報告>

学科\入学年度		H28	H29	H30	H31	R2	R3
環境土木 工学科	体験参加数	37	24	33	37	23	24
	出願数	32	24	29	33	19	14+見込 1
	入学数/定員	24/25名	21/25名	26/25名	23/25名	15/25名	/25名
	定員充足率	96%	84%	104%	92%	60%	
	委託生の割合	2/24名 8.3%	3/21名 14.3%	1/26名 3.8%	4/23名 17.4%	2/15名 13.3%	
造園緑地科	体験参加数	16	10	15	8	12	12
	出願数	13	8	10	5	2	4+見込 5
	入学数/定員	12/20名	6/20名	8/20名	5/20名	2/20名	/15名
	定員充足率	60%	30%	40%	25%	10%	
	委託生の割合	0/12名 0%	0/6名 0%	0/8名 0%	0/5名 0%	0/2名 0%	
測量情報科	体験参加数	6	12	6	17	10	7
	出願数	8	20	15	15	15	6+見込 5
	入学数/定員	8/10名	19/10名	12/10名	14/10名	15/10名	/15名
	定員充足率	80%	190%	120%	140%	150%	
	委託生の割合	5/8名 62.5%	13/19名 68.4%	9/12名 75%	13/14名 92.9%	15/15名 100%	
環境土木・ 造園施工 管理科	体験参加数	4	8	7	8	19	4
	出願数	20	17	22	20	33	19+見込 2
	入学数/定員	19/10名	15/10名	20/10名	18/10名	30/10名	/15名
	定員充足率	190%	150%	200%	180%	300%	
	委託生の割合	18/19名 94.7%	13/15名 86.7%	20/20名 100%	16/18名 88.9%	30/30名 100%	
全体	体験参加数	63	54	61	70	64	47
	出願数	73	69	76	73	69	43+見込 13
	入学数/定員	63/65名	61/65名	66/65名	60/65名	62/65名	/70名
	定員充足率	96.9%	93.8%	101.5%	92.3%	95.4%	
	委託生の割合	25/63名 39.7%	32/61名 52.5%	30/66名 45.5%	33/60名 55%	47/62名 75.8%	

※R3 入学生の出願見込は 11/18 現在の情報

リクルートのシステム「スタディサプリ for marketing」で資料請求者を管理している。2020年3月には道内・東北地方の注力高校へ、AO・学校推薦入学とカリキュラム変更、高等教育の修学支援新制度等についての案内を郵送した。5月には新パンフレット・募集要項が完成し、保有名簿の中から来春入学が見込める約750人と高校約200校の進路指導部へも発送した。

体験入学については、午前中にオンライン、午後から通常対面を用意し、5・6月は公共交通機関を利用したの来校はご遠慮いただいた。例年3回開催していた夏休み特別体験入学は、休校の振替授業のため2回開催となったが、19名の参加がありコロナの影響は大きく無かったと言える。

メールアドレスや学校公式LINE登録者には、適時、体験入学や相談会等の情報を配信しており、数人から反応がある。LINEでの個別の質問にも対応し、入学希望者と接触を図っている。

また、高3生から資料請求があった場合には、広報担当者をはじめ校長、岩瀬教員等が札幌近郊の高校を中心に訪問し、進路指導部へ本校の情報提供や資料請求者の進路情報を得ている。

コロナの影響で春の相談会は延期となり、9月頃から開催されるようになったが、対象が高1・2生となっているため即時の効果は得られていない。

造園緑地科ではAO入試の導入などの入試改革、高校訪問の強化他により11月現在入学見込みの学生は9名と増加傾向にあるが定員数には及ばない状況である。造園緑地科は企業委託等業界連携による入学者がいらない。今後（一社）北海道造園緑化建設業協会との協力により効果的な学生募集が可能かどうか協議を行っている。

環境土木工学科では従来通りの学生募集を行っているが、今後、（一社）札幌建設業協会からの支援として、奨学金による学生への経済的支援や、札幌地下歩行空間でのイベント（建設業界や学校紹介のパネル展示）等の話をいただいている。若手技術者の不足が深刻となっており、業界が一丸となって人材を集める必要がある。

#### 委員の意見

- ・学校も収益団体であり、学生の確保が絶対条件です。新型コロナウイルス感染で経済情勢も不透明な中、比較的建設業関連産業の影響が少ない状況に置いて今後建設業関連産業への官民での技術者採用も期待できる方向で学生並びに父兄の考え方も変わる可能性が期待されています。これらの状況を踏まえ、道内高校並びにゼネコン、測量・コンサルへ建設業関連産業の実情を把握している行政技術職経験者（OB）と学校関係者の訪問活動を試みるのも有りでは。（下原）

- ・道内唯一の学校でありますので、アピールの方法はあると思います。企業委託生は多いのでこれを活かすのも良いのでは。（松本）

- ・業界の情報や協力を得て、造園緑地科の定員15名を確保するため、業界関係者として（一社）北海道造園緑化建設業協会理事長や企業等委員として株式会社コクサク代表取締役早坂有生氏に向委員会の委員をお願いする。（前田）

- ・ITを活用した積極的な情報提供がなされていますが、特に造園緑地科は若手技術者の不足が深刻な状態とのことで、業界と連携してその魅力を積極的に配信していく必要もあると思います。（伊藤朋）

#### <令和2年度の報告>

学科\入学年度		H28	H29	H30	H31	R2	R3
環境土木 工学科	体験参加数	37	24	33	37	23	34
	出願数	32	24	29	33	19	23
	入学数/定員	24/25名	21/25名	26/25名	23/25名	15/25名	21/25名
	定員充足率	96%	84%	104%	92%	60%	84%
	委託生の割合	2/24名 8.3%	3/21名 14.3%	1/26名 3.8%	4/23名 17.4%	2/15名 13.3%	0/21名 0%
造園緑地科	体験参加数	16	10	15	8	12	26
	出願数	13	8	10	5	2	18
	入学数/定員	12/20名	6/20名	8/20名	5/20名	2/20名	17/15名
	定員充足率	60%	30%	40%	25%	10%	113%
	委託生の割合	0/12名 0%	0/6名 0%	0/8名 0%	0/5名 0%	0/2名 0%	0/17名 0%

測量情報科	体験参加数	6	12	6	17	10	11
	出願数	8	20	15	15	15	16
	入学数/定員	8/10名	19/10名	12/10名	14/10名	15/10名	15/15名
	定員充足率	80%	190%	120%	140%	150%	100%
	委託生の割合	5/8名 62.5%	13/19名 68.4%	9/12名 75%	13/14名 92.9%	15/15名 100%	15/15名 100%
環境土木・造園施工管理科	体験参加数	4	8	7	8	19	5
	出願数	20	17	22	20	33	21
	入学数/定員	19/10名	15/10名	20/10名	18/10名	30/10名	20/15名
	定員充足率	190%	150%	200%	180%	300%	133%
	委託生の割合	18/19名 94.7%	13/15名 86.7%	20/20名 100%	16/18名 88.9%	30/30名 100%	17/20名 85%
全 体	体験参加数	63	54	61	70	64	65
	出願数	73	69	76	73	69	78
	入学数/定員	63/65名	61/65名	66/65名	60/65名	62/65名	73/70名
	定員充足率	96.9%	93.8%	101.5%	92.3%	95.4%	104%
	委託生の割合	25/63名 39.7%	32/61名 52.5%	30/66名 45.5%	33/60名 55%	47/62名 75.8%	32/73名 43.8%

#### 【評価】

事務局中心とした HP 作成やパンフレット送付、進学情報の入手と高校訪問活動が行われてきている。入試形態の変化など学科ごとの学生募集対象の違いなど多様性が出てきている中で、組織的な学生募集を行えなかった。

#### 【新年度方針】

企業奨学金制度や指定校推薦など多様な入試制度により、より多くの受験機会を提供する。

公的支援のほか、本校独自の奨学金制度を充実させる。事務局、広報、学科が連携し、学科の特徴に合わせた学生募集を組織的に行えるよう組織変更を行い、計画をたて学生募集を行う。

環境土木工学科では土木・農業土木公務員志望者を、造園緑地科では造園施工技術者を中心に林業・土木公務員を、1年制環境土木施工管理科および測量情報科では企業委託者を中心に募集を行う。また、北海道開発局をはじめ（一社）札幌建設業協会、北海道測量設計業協会、（一社）札幌造園協会、北海道グリーンサービス協会、さらに今年からは（一社）北海道造園緑化建設業協会など進路先の業界団体と連携し学生の募集を行う。

#### 委員の意見

- ・AO入試での学生評価はいかがでしょうか。今後の継続及び他学科への検討もありますか。（下原）
- ・場所的なデメリットもあるため、他校のように地下鉄までの送迎なども有効ではないか？（伊藤朋）

## VIII 財務

### <令和2年度前期の報告>

造園緑地科では学生数の低迷が続いている。2年制学科の安定が学校の安定的運営につながる。少子化の中で学生を安定的に集めるために、カリキュラム、入試、学生募集について変更をおこなった。さらに、業界と高校との連携を図り安定的な学生募集が行える方法を構築する。

### 委員の意見

- ・道内の高校生の進学就職等の実状・希望・地域の実状などの情報はどのように把握していますか。(下原)
- ・業界からのアピールが必要とともに、カリキュラムを一般向けするものにした方が高校生も興味が出るのではないのでしょうか。(松本)
- ・若い女性または男性専任教員を採用するため、人件費を確保するべきである。(前田)
- ・コロナ禍での経済への影響により、企業委託生も減少する可能性もあり、安定した学生確保の方策を早期に検討する必要があると思います。(伊藤朋)

### <令和2年度の報告>

特になし。

### 委員の意見

## IX 法令等の遵守

### <令和2年度前期の報告>

特になし。

### 委員の意見

特になし。

### <令和2年度の報告>

特になし。

### 委員の意見